

橋本市生活交通ネットワーク協議会（和歌山県）



協議会での議論の下、県下第一号となる地域公共交通網形成計画を策定した上で、民間バスとコミュニティバスの競合解消をはじめとした交通再編や利便性向上を実現し、費用を抑制しつつ、運賃収入の増加に成功。市政の屋台骨となる公共交通へと生まれ変わった。

（取組の概要）

1. 多様な主体の実質的参画

- ・協議会には、市の複数部署、各種団体、住民代表、民間事業者、近畿運輸局和歌山運輸支局等、多様な者が参加。
- ・協議会での議論に加え、「**地域公共交通活性化シンポジウムin橋本**」(平成28年11月)を開催し、地域住民の意識を醸成。こうした取組により、平成29年3月に、交通再編等を盛り込んだ**和歌山県下で第一号となる地域公共交通網形成計画**を策定。

2. 創意工夫

(1) 民間バス路線とコミュニティバス路線の競合解消 <路線バスとコミュニティバスの**共存共栄**>

- ・従来は路線バスとコミュニティバスが競合し、路線バスの経営を圧迫していた。まずは、コミュニティバスの敬老乗車制度を廃止し、路線バスとコミュニティバスの**料金格差を解消**。その後、**主要路線は民間バス路線が運行し、コミュニティバス等がそれを補完**する形へ再編。いずれも、住民の声を踏まえ**段階的に実施**。
- ・利用の少ないコミュニティバス路線の廃止にあたっては**客観的な基準**を設定。また、廃止に伴う影響を最小化するべく、**デマンド交通の運行を開始**。

(2) 各種公共交通機関同士の連携強化 <公共交通機関同士が協調し、**利便性向上**を実現>

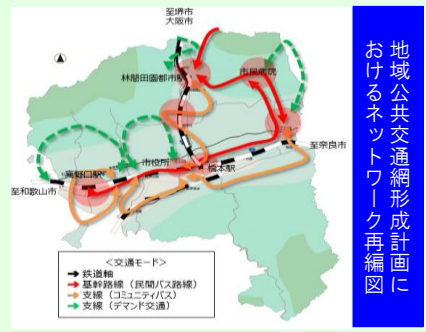
- ・バスとデマンド交通の乗継時の**運賃割引**やコミュニティバスの**ダイヤ改正**により、乗継に対する抵抗感を緩和。
- ・民間バス等の協力の下、**コミュニティバスも鉄道主要駅に乗入**。また、鉄道利用者の利便性向上のため、路線バス及びコミュニティバスに**ICカードを導入**。さらに、「**標準的なバス情報フォーマット**」を活用して乗換案内アプリでの検索を可能に。

(3) まちづくりや観光、市民生活など幅広い分野との連動 <市政の**屋台骨となる公共交通**へ>

- ・再編にあたり、中心施設である市民病院や主要駅を経由する形にする等、市の**まちづくりと連動**。また、**観光需要を取り込む**ため、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部、黒河道(くろこみち)の始点を經由。
- ・コミュニティバス・路線バスの**低床バス化**、**停留所名を買い物施設・病院・コンビニ名にする**など、市民の生活利用に密着。

3. 自立性・継続性

- ・平成29年度からの一連の交通再編により**全体のコストを20%抑制**。運賃収入は再編当初に減少したものの、すぐに増加基調に転じ、**令和2年度はコロナ禍にも関わらず前年度より10%程度増加**する見込み。
- ・市が運行していた市民病院無料送迎バスを廃止し、路線バスに一本化(令和2年1月)したところ、**当該バス利用者数はコロナ禍にも関わらず順調に増加**。
- ・交通再編により削減した予算は、**デマンド交通の運営費として活用**しており、効率化とともに継続性を実現。



地域公共交通活性化シンポジウム in橋本 (H28. 11. 18)

